

広報部だより



広報部 母谷章宣

雑木林、野原、水辺などが一体となった庭園

2年余り慣れ親しんだ光台一丁目のシルバー人材センター事務所は6月19日移転します。

この建物はシルバーが入るまでは「関西文化学術研究都市展示館」といい一種のパビリオンのようなものだったことから、屋根材は太陽光発電を利用してお湯を作り、冬は空気を集めて床暖房システムと斬新的な設備を備えていました。

それにも増して、その建物を取り巻く庭園はすばらしく、雑木林、野原、水辺などが一体となった小さな里山風景の創出をめざしていると言うだけあって、四季折々季節感を満喫できるように絶妙に設計されていました。

早春のウグイス、新緑の時期にはキジが現れ、夏草が終わりに近づくと虫たちの演奏をきくことができるようになり正に里山の自然を感じることができる演出です。

竹林にそよぐ風の音、池の周りに配置された菖の花、雑木林の中にたわわに実をつけた栗のイガなどみんな心安らぐ場所でした。これらの風景はこの場所へ出入りされた多くのシルバー会員の心の中にいつまでも残り続けるに違いありません。

シルバー人材センターが去ったあとこうした立派な施設がどうなってしまうのかちょっと心配になります。

こうした私の哀愁を察してか、先日広報誌第13号編集の日に、会議室の大窓の近くにキジが姿を見せついにデジカメに収めることができたのです。

その写真をここに掲載させていただきました。



会議室前の植え込みに現れたキジ

編集後記



広報担当 川野武豊



天候不順が続く いま 田植えシーズン真っ只中ですが農家の皆様のご苦勞によき実りを期待しています。当シルバーセンターも次の実りに向けて頑張っています。団塊の世代の受け皿作りに特に注力していますので、業容拡大に会員皆さんの絶大なるお力添えとご協力をお願いいたします。

また、シルバーせいか13号を会員の手元に届けられますことも広報部として喜んでいきます。

内容もより充実し、会員の意見を十分取り入れた広報誌作りをめざしがんばっております。今後とも、「会員のひろば」を中心に皆さんの原稿をお待ちいたしています。